

営農情報（大豆）

令和5年8月10日

J A福岡大城 南筑後・久留米普及指導センター

1 生育概況

6月末から7月中旬まで雨が続き、播種は7月16日からの開始となり、7月末までには概ね終了しました。一部、出芽不良のほ場もありますが、概ね順調です。播種時期により、生育に差があるため、生育に合わせて適期管理を行いましょよう。

2 中耕・培土

本葉2～3葉期以降、5～6葉期までに中耕・培土を行います。

倒伏防止、雑草防除、土壌の通気性・排水性の向上等の効果があります。

<ポイント>

- ・培土後の溝は、表面排水の向上のため、明渠や排水溝に連結させます。
- ・開花期以降の培土は根を切断しやすく、生育抑制や落花につながるため、開花始め（平年8/20頃）までに終了します。

3 雑草対策

雑草が多いほ場は、中耕・培土と除草剤を組み合わせで対応します。

<アサガオ等の広葉雑草が多いほ場>

薬剤名	使用時期	備考
大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) ただし収穫45日前まで	・アサガオ類：2～3葉期まで (ツルが出てきたアサガオ類には効果落ちる) ※気温が高い日中の散布は大豆への薬害を助長する ・使用回数：1回
アタックショット乳剤	大豆本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) ただし収穫45日前まで	・ホオズキ(5葉期まで)、ケイトウ類(10cmまで)に効果高い ※大豆の葉に薬害が生じますが、新たに展開する葉には影響なく、次第に目立たなくなります ・使用回数：1回

<イネ科雑草が多いほ場>

薬剤名	使用時期	備考
ポルトフロアブル	雑草生育期 (イネ科雑草3～10葉期) ただし収穫30日前まで	・中耕・培土後に散布すると長期的に防除できる ※スズメノカタビラを除く ・使用回数：1回

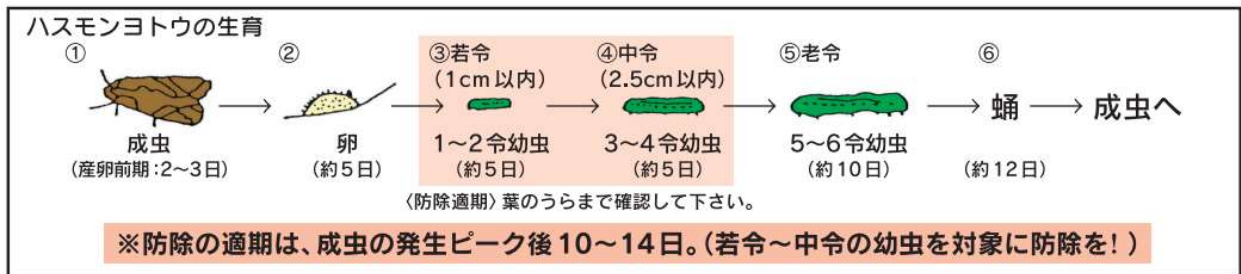
4 乾燥対策

大豆は、開花はじめから子実肥大終了までの約1カ月間で全生育期間に吸水する水分の約80%を必要とします。5日以上まとまった降雨がなく、ほ場が白く乾いている場合は、うね間かん水を行うか、水路の水位が暗渠の排出口より低い場合は、暗渠栓を閉める等の対策を行いましょう。

5 ハスモンヨトウ対策

ハスモンヨトウの食害を受けると、収量低下の要因となりますので、**ほ場での発生状況を確認して防除を行ってください。**フェロモントラップ等の誘殺数を参考にする場合は、成虫の誘殺ピークから**10～14日後**が防除適期です（幼虫に効く剤のため）。

また、ほ場内で葉の裏に幼虫が群生している白変葉を見つけた場合は、早めに除去します。



薬剤名	希釈倍数	10a 当たり 使用薬量/ 散布液量	使用時期	使用 回数	備考
プレオ フロアブル	(液剤体系) 1,000～2,000 倍	50～100ml /100L	収穫7日前 まで	2回以内	材ハコガは 1,000 倍で使用
	(無人航空機体系) 8～16 倍	50～100ml /0.8L			

☆農作業時の熱中症に注意しましょう。

●日中の気温の高い時間は外して、涼しい時間帯に作業を行いましょう。

●こまめな休息と水分補給が大切です。

☆農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましよう！